

【主要指標推移】	04年度	03年度	増減	02年度
油価(USD/BBL)	28.0	27.0	1.0 (4%の上昇)	25.9
為替(YEN/USD)	100.0	113.2	13.2 (12%の円高)	122.0
金利(%)TIBOR	0.10	0.09	0.01 (11%の上昇)	0.09

## 2003年度連結決算及び2004年度業績見通し(米国基準)

損益の状況 (単位:億円)	2002年度 実績	2003年度実績		2004年度通期見通し	
			前年度比		前年度比
売上高	133,287	151,770	18,483	152,000	230
売上総利益	7,186	7,693	507 (+7.1%)	8,000	307 (+4.0%)
販売費及び一般管理費	5,954	6,314	360	6,500	186
貸倒引当金繰入額	226	74	152	100	26
営業利益	1,006	1,305	299 (+29.7%)	1,400	95 (+7.3%)
利息(受取利息差引後)	140	106	34	70	36
受取配当金	282	282	0	270	12
有価証券損益	431	52	483	100	79
固定資産損益	56	184	128	100	79
その他の損益	53	153	206	0	0
税引前利益	608	1,502	894 (+146.9%)	1,700	198 (+13.2%)
法人税等	383	681	298	760	79
少数株主持分	80	157	77	190	33
持分法による投資損益	397	490	93	550	60
会計原則変更による累積影響額	81	0	81	0	0
当期純利益	623	1,154	531 (+85.3%)	1,300	146 (+12.7%)
基礎収益(*1)	1,771	2,045	274 (+15.5%)	2,250	205 (+10.0%)

(\*1)基礎収益 = 営業利益(貸倒引当金繰入額控除前) + 利息収支 + 受取配当金 + 持分法による投資損益

資産と負債の状況	2003年3月末	2004年3月末		2005年3月末	
			前年度末比		前年度末比
総資産	80,979	83,905	2,926	86,000	2,095
(流動資産)	39,221	42,700	3,479	43,000	300
(投資及び長期債権)	25,100	25,975	875	28,000	2,025
(有形固定資産ほか)	16,658	15,230	1,428	15,000	230
株主資本	9,371	12,236	2,865	13,500	1,264
有利子負債 GROSS (*2)	39,129	40,124	995	41,000	876
NET (*2)	35,261	35,208	53	36,000	792
有利子負債倍率 GROSS	(4.2倍)	(3.3倍)	(0.9倍)	(3.0倍)	(0.3倍)
NET	(3.8倍)	(2.9倍)	(0.9倍)	(2.7倍)	(0.2倍)

(\*2)有利子負債には「割引手形」及び「FAS133適用による影響額」を含めておりません。

キャッシュフローの状況	2002年度 実績	2003年度 実績	
			前年度比
営業活動によるCF	2,703	2,344	資源関連事業や海外自動車事業の堅調な推移が寄与
投資活動によるCF	244	628	海外資源関連事業への投資とリース用航空機の取得による資金減
フリーキャッシュフロー	2,459	1,716	
財務活動によるCF	2,827	351	子会社で好調な営業収入を背景に借入金の返済を進めたことによる資金減
現金及び現金同等物の増減額	464	1,269	

### 2003年度決算の概要

【概要】  
連結純利益1,154億円を達成  
好調な商品市況を背景に、収益の3本柱である「エネルギー事業」「金属」「生活産業」で順調に収益を伸ばしたことに加え、「機械」が大幅な増益となり、収益の4本柱が形成された。この結果、連結純利益は商社で初めて1,000億円を超え、前年比85%増益の1,154億円を達成した。基礎収益でも過去最高の2,045億円(前年比16%増益)を達成し、営業利益も前年比30%増益の1,305億円を計上した。

過去3年の収益推移

全オペレーティングセグメントで黒字且つ前年度比増益を達成  
新機能事業が初めて黒字となり、且つ全てのセグメントで前年度比10%以上の増益を達成した。  
(下のセグメント情報の欄を参照下さい)

株主資本が1兆2千億円台に増加  
好業績を背景とした当期利益の積み上がりに加え、株式市場の回復や年金積立不足の改善により株主資本が2003年3月末と比較して2,865億円増加し、初めて1兆2千億円を超えた。また、有利子負債倍率もネットで2.9倍と3倍を切った。

### 2003年度決算 主な増減内容(前年度比)

a. 売上総利益(+507)  
メタルワン設立の影響に加え、石油関連製品や石油化学品の市況が好転したことや、アジアでの自動車販売が好調に推移したことなどから、売上総利益は前年度比7%増加した。

b. 販管費(-360)  
メタルワン設立の影響や食料関連子会社の業容拡大により、総利益増加見合いに販管費は増加した。

c. 貸倒引当金繰入額(+152)  
前年度、機械関連取引にて多額の貸倒費用を計上した反動により、貸倒引当金繰入額は大幅に改善した。

d. 金融収支(+34)  
欧州自動車販売金融会社の子会社化並びに、業績好調な子会社で借入金の返済が進んだため金融収支は改善した。

e. 有価証券損益(+483)  
・上場有価証券評価損... +387[ 17 404]  
・不良資産償却関連損失... 71[ 459 388]  
・その他株式売却損益等... +167[ +528 +361]

f. 固定資産損益(-128)  
前年度、親会社で保有不動産の売却益を計上した反動や、主に子会社での固定資産減損の増加により、固定資産損益は悪化した。

g. その他の損益(+206)  
海外子会社で売上代金にかかわる為替差益が増加したことや、金融デリバティブ評価損益の改善等でその他の損益は改善した。

h. 持分法による投資損益(+93)  
資源関連の関連会社が好調に推移したことに加え、ローソンの増益もあり前年度と比べて増加した。

### セグメント情報

セグメント別連結純利益の推移

【主な増減】  
新機能事業... ローソンの持分利益増及び株式売却益の増加により増益。  
エネルギー事業... 石油関連取引の増益と海外資源開発会社の好調により増益。  
金属... 豪州石炭関連子会社の堅調とメタルワンの好調な滑り出しにより増益。  
機械... 自動車事業の好調と前年度貸倒費用の反動や株式売却益により増益。  
化学品... 石油化学品市況の好転により増益。  
生活産業... 前年度貸倒費用の反動及び株式売却益により増益。

### 2004年度業績見通し

【概要】  
2001年度からの3ヵ年計画であるMC2003に基づき、「ポートフォリオ戦略」による事業の入れ替えと成長が見込まれる分野への経営資源の再配分を実行した結果、MC2003期間中でわが社の基礎収益力は大きく伸長し、商社初となる連結純利益1,000億円台を達成した。2004年度は、現在の収益力を持続可能なものとするための足元固めを行い、且つ更なる飛躍を目指し、当期純利益、基礎収益ともに前年度比10%程度の増益を目標とする。

【主な項目】  
i. 営業利益... 1,400億円  
主に食品関連事業の事業拡大や親会社の年金費用の改善により、営業利益は前年度比95億円増加の1,400億円と見込んでいる。  
j. 税引前利益... 1,700億円  
営業利益の増加に加え、不良資産償却の減少により税引前利益は前年度比198億円増加の1,700億円を見込んでいる。  
k. 当期純利益... 1,300億円  
税引前利益の増加に加え、持分法による投資損益も堅調に増加する見通しであることから、当期純利益は前年度比146億円増加(13%増)の1,300億円を見込んでいる。

(注意事項)  
本資料における業績予想や将来の予測に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき合理的と判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性その他の要因が内包されています。従いまして、実際の業績は、見通しと大きく異なる結果となる可能性があります。